

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立切木小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>「地域とともに歩む学校」を念頭におき、家庭や地域と連携して取り組んできたが、まだ、学校側の思いがうまく伝わっていない面もある。意見や要望等を踏まえ、今後も更なるアピールを心がけていく。</p> <p>いきいき学ぶからつっ子育成事業の取組等により、楽しく体験活動を行うことや地域と連携した学校行事の項目においては、今年度も保護者の評価が高かった。今後は行事精選を行いつつ内容を見直しながら価値ある体験活動を計画し、地域との交流を深めていく。</p> <p>今後、更に「学校が楽しい」「明日も行きたい」と感じる児童の育成を目指し、学校や学級の取組等を工夫・改善し、伝え、地域や保護者から信頼される学校づくりに努める。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	<p>「自ら 気づき 考え 実行する」子どもの育成 「自ら学ぶ子」「思いやりのある子」「健康でたくましい子」 自己指導能力の育成 ◇自己決定の場を与える ⇒ 課題等について、自分で考え、判断し、実行させる ◇自己存在感を感じ取らせる ⇒ 一人一人が活躍できる場や役割を設け、称賛する ◇共感的な人間関係 ⇒ 仲間と考える機会をつくり、相互理解を促す</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>本年度の5つの重点目標と重点取組 (1)自ら学ぶ子どもの育成(自立した学習者の育成) ◇三つのそろえる ◇授業と家庭学習の往還 ◇アクションプランに基づいた授業展開 (2)「思いやり」の心をもつ子どもの育成 ◇「温かな心・言葉・行動」の実践 ◇道徳教育と人権・同和教育の充実 ◇自己肯定感と他者肯定感の伸長 (3)たくましい心と体をもつ子どもの育成 ◇徒歩通学・外遊びの奨励 ◇スポーツチャレンジの充実 (4)進んで読書をする子どもの育成 ◇図書時間の確保と必読書の奨励 ◇各学年の貸出冊数を意識した読書指導 (5)小中連携による社会性の伸長 ◇ソーシャルスキルやグループエンカウンター継続実施 ◇マナー検定の実施 ◇地域から学び、志を高める教育活動の充実</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
重点取組	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果			評価
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。			A	・マイプランの成果指標である「授業がよく分かる」と回答した児童・保護者の割合はどちらも数値目標を上回っており、マイプランの成果指標を達成することができた。 ・「3つのそろえるの準備ができている」児童は1月の2回の調査の平均80.9%で、目標を達成することができた。	A	・学力向上については、県学習状況調査の結果や学校の子どもの様子から高まっていると思う。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○授業規律と学習の進め方の工夫「わかる・できる・楽しい」授業づくり	○「授業がよく分かる」と回答する児童や保護者85%以上 ○「3つのそろえる」ができる児童80%以上 ○自分で計画を立てて家庭学習をしている児童75%以上	・アクションプランに基づいた授業実施(自己決定・自己存在感・共感的な人間関係)と「3つのそろえる(準備力)」の指導の徹底			A	・「学校は、個に応じた指導や分かる授業づくりをしている」と回答した保護者は92.7%で、目標を達成することができた。 ・「3つのそろえるの準備ができている」と回答した児童は83.7%、1月の2回の調査の平均80.9%で、目標を達成することができた。 ・「自分で計画を立てて家庭学習をしている」と回答した児童が81.9%で数値目標を達成できた。	A	・今年度は、コロナ禍で授業参観は、あまり実施できなかったが、児童や保護者のアンケート結果から、先生方が分かりやすい授業の工夫に取組まれていることが伝わってきた。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳の授業で、自分の考えを深めたり、友達と話し合ったりする活動をしていると思う」と回答した児童82%以上 ○「温かな心・言葉・行動」ができたと思うと回答した児童80%以上	・人権集会や道徳科や学級活動等で人権意識の高揚を図る。 ・縦割り班活動や体験活動を通した「心の教育」を行う。			A	・「道徳の授業で、自分の考えを深めたり、友達と話し合ったりする活動をしていると思う」と回答した児童89.1%で、数値目標を達成し、90%の教員が考えを深める話し合い活動を仕組んでいると回答した。 ・人権集会では、人権擁護委員の話や子どもたちの人権意識の高揚を図ることができた。 ・困っている友達がいいたら、声をかけたり助けたりしていると思うと回答した児童は90.9%で、数値目標を達成した。 ・代表委員会で話し合い、ドッジボール大会、ごみ拾い活動、思いやりの木の取り組みを行った。	A	・毎朝、登校中にごみを拾う児童が教育長表彰されたのは良かった。他の学年にも良い影響を与えている。 ・地域の人にもよく挨拶をしている。地域の環境や住人を大切に思う心が育ってきていると感じた。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者 ・特活部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上 ○「いじめゼロ」を守れていると回答する児童80%以上	・日々の児童の様子を観察し、小さな変化も見逃さないよう、複数の目で児童を観察する体制づくりに努める。 ・児童発案による「いじめゼロ」を目指す取組を浸透させ、学期ごとにいじめに関するアンケートを実施する。 ・あいさつや返事が上手な児童を全校で紹介し、意識付けを図る。			A	・このアンケートや学校生活アンケートで出てきた問題について、個別面談を行うなどして問題のある行動を把握し、個別に対応し、解決を図った。学級間をまたぐ問題については、生活主任を中心に面談を行い事業の把握、解決に向けた話し合いを行った。 ・「学校は楽しいですか」の問いに対して「そうです」「だいたいそうです」と答えた児童95%、「いじめのない学校づくりができているか」の問いに対して「そうです」「だいたいそうです」と答えた児童95%に達した。 ・「何かに気づいたら考えて行動する」の問いに対して80%の児童が「そうです」「だいたいそうです」と答え、考えて行動する児童が増えている。	A	・児童トラブルの多くは、放課後児童クラブで起きていると聞いて心配している。 ・学校生活での問題等については、児童の様子やアンケートから早期対応をされており安心した。	・生徒指導担当 ・生活部
	○明るく元気な「あいさつ・返事」を身に付ける	○「明るく元気なあいさつ・返事ができた」と回答する児童85%以上								
●健康・体づくり	◎夢や目標に向かい努力しようとする気持ちや育む教育活動の推進	○夢や目標をもっている児童85%以上 ○マナー検定での合格者85%以上	・地域人材やOB、OGを活用し、「なりたいたい自分になる」ためのキャリア教育を意識して取り組んでいく。 ・マナー検定の実施			B	・新型コロナウイルス感染防止のため地域人材の活用はできなかったが、校長が講師となってSSTを全学年で実施し、キャリア教育を充実させることができた。 ・マナー検定(修了・卒業検定面接)での合格者100%で、目標を達成することができた。	A	・キャリア教育の一つとしてソーシャルスキルトレーニングの取組が行われており、将来に向けてすばらしい実践であると感じた。	・指導教諭 ・特活部
	①「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外(昼休み等)で、外での運動やスポーツを行う児童80%以上 スポーツチャレンジ前に、練習をしている児童80%以上	・外遊びの奨励、スポーツチャレンジでの個人目標の設定			A	・なわとび大会は全校での実施ができなかったが、各学年において大会同様の内容で実施することができた。昼休み等には外でなわとびの練習をしたり、元気に遊ぶ姿が多く見られ、健康増進の意識がさらに高まった。 ・今年度は初の校内給食又コンクールを実施。全校児童全員が作文を書き、食べ物や給食調理員さん、栄養教諭さんに対しての感謝の気持ちをもつことができた。 ・夜の歯みがきの実施率は平均88%で目標を上回った。実施前にはメール配信で家庭の協力を依頼したり、児童の感想をお便りに掲載したりして意識の高揚を目指した。	A	・コロナ禍で、3密を避けるなど感染症対策を講じて工夫して実践してもらったと思う。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」や「歯みがき指導」は、家庭での教育が大切だと思う。	・体育主任 ・養護教諭 ・保健部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)								
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務等時間の上限を遵守する。月平均45時間を超えない割合85% ●定時退勤日の実施率85%	・業務の平準化、時期と優先順位の意識化、内容と提出期日の可視化 ・定時退勤日の浸透と確実な実施			A	・定時退勤日(毎週金曜日)については、90%を超える職員が実施できており、時間外勤務の月平均45時間以内については、2月までの達成率が、87.1%であった。タイムマネジメント及びタスクマネジメントを意識した業務遂行ができていた。今後は継続して、業務効率化の推進を図っていく。	A	・公務員の職種によっては、休職者が増えていると聞く。先生方は、必要な休みはきちんととって、心身ともににはつつとして、子どもの教育にあたってほしい。	・管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
重点取組	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果			評価
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上	・特別支援に関する研修会の実施(個別対応・支援の在り方・合理的配慮等について) ・巡回相談等における情報共有			B	・特別支援に関する専門性が向上した」と回答した職員は76.9%で、数値目標を下回った。今後、計画的な研修を位置付け、個別対応・支援の在り方・合理的配慮等について研修を深めていく。 ・特別支援に関する研修や、校内支援委員会での情報共有については、確実に取り組むことができた。	A	・今後も、児童に応じた支援の在り方や合理的配慮等について理解を深めながら継続して取り組んでほしい。	・特別支援コーディネーター
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)								

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ○・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>学校教育目標「自ら 気づき 考え 実行する」子どもの育成の実現のために、学力向上や心の教育等において、自己決定の場を設定し、共感的な人間関係を構築する取り組みを実践してきた。ソーシャルスキルトレーニングや授業改善(授業と家庭学習との連動)、道徳科の学習を通して、児童の自己理解や他者理解が深まっている。キャリア教育の一つであるマナー検定(修了検定・卒業検定)では、4年生以上の全員が合格することができたことから、そのことが伺える。</p> <p>学力向上評価シート(マイプラン)を基として校内研究や授業改善に取り組んできたことにより、「授業がよく分かる」という回答が児童と保護者共に評価が高かった。県学習状況調査でも昨年度と比較すると成果が表れている。学習の基盤となる学習規律「3つの揃える」については、今後も引き続き児童保護者に啓発していく必要がある。</p> <p>今年度は、コロナ禍で地域との交流活動の場を設けることが少なかった。今後はコロナ禍に伴う行事精選及び内容を見直しながら価値ある体験活動を計画し、意見や要望等を踏まえ地域との交流を深めていく。更に「学校が楽しい」と感じる児童の育成を目指し、学校教育目標を念頭に置いて、学校や学級の取組等を工夫・改善し、地域や保護者から信頼される学校づくりに努める。</p>
--------------------	--